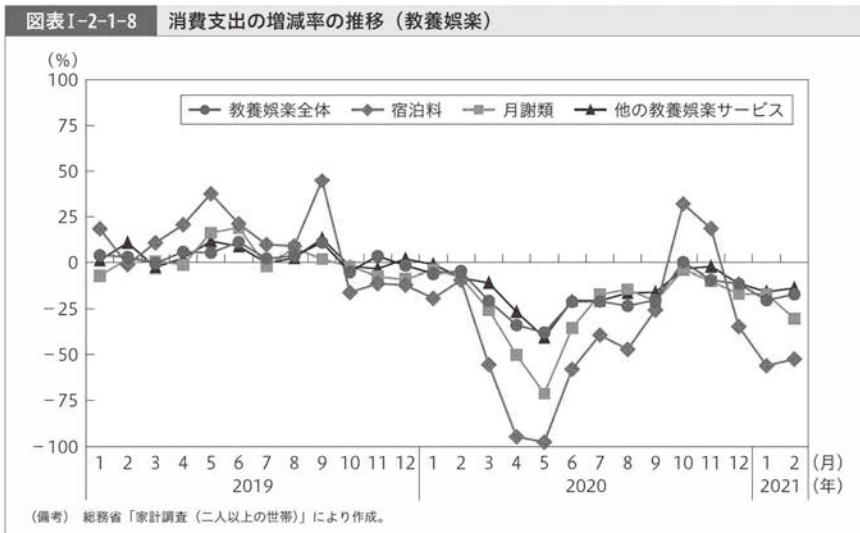
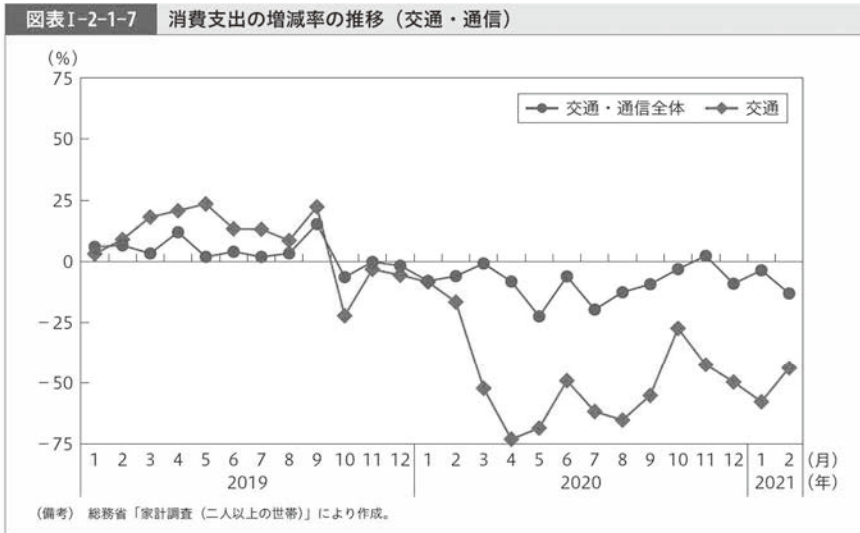


2023 年度
一般推薦入試（法学部）
小論文（ 60 点 90 分）

第1問

下の資料（図）は、消費者庁『令和3年版 消費者白書』（2021）66 ページに掲載されたものである。この資料から読み取ることができることを500字以上600字以内でまとめなさい。その際に、新型コロナウイルス感染拡大により、2020年4月から5月まで緊急事態宣言が出されたことも踏まえること。



第2問

「消費の場」がオンライン上にシフトする中で、より様々な情報に直面している消費者には、正しい情報を見極め、自ら適切に判断し冷静に行動することが求められている。下記の文章

（『令和3年版 消費者白書』125ページ）を読んで、民間企業や行政機関にはどのように活動することが期待されるのかについて、300字以上400字以内で述べよ。

「新しい生活様式」において人との接触回避が求められる中、対面を前提とした消費が減少し、オンラインを介した消費が増加しています。特に旅行や外食などリアルでの体験（コト）を求める「コト消費」を減らし、オンラインでの食料品や家電等の購入といった「モノ消費」、インターネット配信による娯楽やオンラインを通じたコミュニケーション等といった「コト消費」を増加させる動きがみられています。

新型コロナウイルス感染症に対する不安感が存在し、見えない相手方とのインターネット上の取引が増大する状況において、多くの消費者は、商品・サービスの購入に当たり、商品の現物確認や価格などを従来から変わらず重視している一方、レビューなどインターネット上の情報を従来より重視するようになった消費者もみられました。飲食店選びにおいても、消費者が重視する項目として、感染防止対策といった新たな視点が加わっています。消費者は自らが適切な判断を行えるよう、商品やサービスの購入に当たり重視する項目を拡げつつあり、「消費判断のよりどころ」は変化の兆しがあることがうかがえます。

2020年以降、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大し、マスク等の物資の品薄や高額転売、不確かな情報の投稿を契機としたトイレットペーパーの買占め、新型コロナウイルス感染症に便乗した悪質商法が発生するなど、消費者の暮らしに影響を及ぼす様々な問題が起きました。こうした中、特に感染が拡大していた2020年3月から5月頃の緊急時においては、生活必需品について、「普段より多く買う」、「数店舗店を探し回る」又は「高額でも購入する」など普段とは異なる行動をとった消費者が一定程度存在しました。また、2020年以降、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する中で消費者がインターネット通販を利用しようとしてトラブルに遭う等、新型コロナウイルス感染症に関する消費生活相談が多く寄せられました。具体的な相談内容をみると、マスク等に関する相談のほか、旅行等のキャンセルに関する相談、新型コロナウイルス感染症に便乗する悪質商法や詐欺が疑われる相談等が見受けられました。このような状況を踏まえ、消費者庁では、マスク等の物質の需要増への対応、不当表示等への対応や悪質商法等の注意喚起等、様々な取組を行いました。